

家族と私  
尊敬、信頼、絆

グループ K 藤森鉄平(ふじもりてっぺい)

1. 家族の紹介

私にとって、家族は大切なコミュニティであり、かけがえのない存在である。家族がいなければ、この世界に私という存在は誕生していないはずであり、家族みんなのおかげで、自分が今、健康で楽しい毎日を送ることが出来ているといっても決して過言ではない。今回、私の中の大切なコミュニティとして家族を取り上げたのには様々な理由があるが、大学生になり一人暮らしをするようになって、家族という存在の尊さを改めて私は認識したのである。私にとって家族とは、自分の夢や、未来を考えていくうえで、常に結びついている存在でもある。私の家族のメンバーとして、まず初めに、父親と母親が挙げられる。子供の頃、人間関係や進路選択など、さまざまな悩みを抱えていた私に対して、父親は、いつも冷静に客観的な視点から状況を判断し、私の将来の生活について後押ししてくれた。母親は、私が困っている際、いつも励ましてくれ、前向きに考えて行動することの大切さを私に教えてくれたのである。また、私には兄弟姉妹がいないため、親戚や近所の方々とも大変深い付き合い方をさせていただいている。私はアメリカに親戚が居り、また、その親戚宅にホームステイしている方々にも大変可愛がっていただいている。そうした周りの存在に支えられて、私は充実した人生を歩んでいるのである。私にとって、彼らは皆、私の家族なのである。

2. 取材散歩に行ってみて

私は、教員免許取得に伴う介護等体験実習に出席していたため、初回の取材散歩には参加できなかった。そのため、取材散歩で行くことができたのは、千秋公園付近にある中国人のチンシンエンさんの部屋のみとなった。当初はチンさんの部屋を伺ったのち、千秋公園を訪れる予定であったが、話に花が咲き、会話がどんどん盛り上がってしまったため、そのまま彼女の部屋で、グループのメンバーと話し合うこととなった。彼女はまだ秋田に留学してきたばかりで、日本でのなれない一人暮らしの生活を必死に頑張っているようだった。彼女の部屋には恋人の写真がたくさん飾ってあり、大変ほほえましかった。家族の写真はまだ手元に準備できておらず、それが残念でならないとも話していた。彼女は本当

に身の回りにいる友人や家族、恋人を愛しており、留学してくる際は、家族や恋人との別れが大変つらかったという。初めてきた土地で、一人暮らしをすることから生まれる寂しさや不安もたくさんあるようだが、恋人とのいろんな写真を見て頑張ることができているようだった。チンさんの部屋を実際に訪れることができたためか、詳しい話をたくさん聞くことができた。中でも特に盛り上がったのが、人間の死後、埋葬の仕方や葬儀の執り行い方が3か国でどれも異なるということだった。同じ東アジアの国とはいえ、日本、中国、韓国でそれほど異なるとは思わなかった。様々な場面で少しずつ文化の違いを感じることができ、話し合いがとても印象深いものとなった。

取材散歩をし、グループのメンバーたちと話し合いをしていくなかで、一つ気づいたことがある。メンバーが、それぞれ自身のコミュニティについて話すときは、いつも微笑みながら話しているというのが、私が感じたメンバーたちへの印象であった。

また、私がメンバーたちに家族という自分のコミュニティを紹介した際、メンバーたちは、「自分も思わず父親と母親のことを考えるようになった。これからは自分ももっとかぞくをたいせつにしていきたい。」という温かみのある意見や、「自分にとっても家族は大切なコミュニティの一つであり、父親と母親に対する気持ちが伝わってくる文章だと思う。一般の家庭では体験できないような貴重な経験もしており、素晴らしい話し合いができると思う」という素敵な意見も頂いた。また、私のグループのメンバーがやっていたように、写真を自分の部屋に飾って自分のコミュニティを紹介するのは大変素晴らしいアイデアだと感じたので、私もぜひ、実践していきたい。

### 3. 話し合い相手について

私は今回、話し相手として、東京に住む大切な知り合いを選んだ。彼と私に血のつながりは無く、実際、親戚とは呼べないが、アメリカに住む私の親戚の家に長い間ホームステイしていた、大切な家族の一人である。私にとって彼は、まさに憧れの存在であり、目標としている人物の一人である。かれは中学卒業後、プロバスケットボール選手を目指してアメリカへ留学し、アメリカにある高校と大学を卒業した後、現在、日本でプロバスケットボール選手として活躍している。彼に初めてお会いしたのは4年前の夏であった。親戚とはいえ、お互いに日本語、英語を知らなかった私たちとアメリカの親戚にとって、彼は通訳として独特のユーモアを交えながら日本とアメリカの橋渡しをしてくれた存在であった。彼がいなければ、私が英語に深く興味を持つことは無かったかもしれないし、当然、この大学には入学していなかったと思う。彼は、私の未来にヒントを与えてくれた貴重な存在である。スポーツと外国語の両方を極めた彼と是非お話がしたい。お話する機会があれば、彼の少年時代の過ごし方や、日本とアメリカの文化差の実情、そして彼自身の人生に対する価値観や、これからの夢についてたくさん伺いたい。

#### 4. 話し合い結果

今回の話し相手として、家族という私にとってかけがえのないコミュニティから、前述したように私は彼を選んだわけである。プロバスケットボール選手という職業上、ある程度、覚悟はしていたが、自分が想像していた以上に彼と話せる機会はなかなか訪れず、さすがはアスリートだなと、改めて私は感心してしまった。毎年、数回顔を合わせる機会があったものの、二人だけでゆっくりと話し合いをする機会はそれほどなかったのが、今回が初めてとなった。大学の授業で取り上げたいので、インタビューさせてほしいと彼に頼んだところ、快く了承していただけたので、私はインターネットのテレビ電話を使って、彼とお話することができた。初めはいつも通り、携帯電話を使って通話をしようかとも考えたが、彼の表情や話し方からも学ぶことが有るのではないかと感じ、あえてテレビ電話という手段を利用した。幼い頃に彼は、バスケットボールというスポーツと出会ったわけであるが、バスケットを初め間もなく夢中になったようであった。彼と話をしていくなかで、とても記憶に残った言葉がある。「毎日少しずつレベルを上げながら練習し、次に進む道に迷ったら、困難な方を選ぶ。」というものである。周りの友達がほかの遊びをしている時も、彼は自分のためにバスケットへ情熱を注いでいたのだということがよくわかり、国内トップクラスの成績を収めることができたのもまったく不思議はないなと感じたのであった。また、私は彼に、私にとって彼が、かけがえのない家族なのだという話をした。思い切って、私や私の両親はどのような存在なのかということも、私は彼に尋ねた。すると、アメリカに住む彼のホストファミリー、つまり私の親戚と同様に、私や私の両親も非常に貴重な家族なのだという答えが返ってきた。彼は、人と人が出会えるのは運命であり、渡米した際、もし他のホストファミリーを選んでいたら、私や私の両親にも出会えていないのだということ話をしてくれた。想像をはるかに上回る答えを聞くことができ、私はただひたすら感動してしまった。最後に、彼に今後の夢を聞くと、日本代表となり、小さいころからの目標であった NBA のコートで試合をすることだと言っていた。そう語る彼の目は常に輝いており、少し照れくさそうに振る舞いながらも、希望に満ち溢れている気持ちがはっきりと伝わってきた。私自身、貴重なお話が聞けて大変うれしく思うと同時に、自分も彼のように大きな夢を持って挑戦を続けたいと素直に考えることができた。

#### 5. 家族と私

家族なしでは自分という人間をここまで成長させることはできなかったはずであり、私が自分の夢について悩み、将来どのように生きていくかを考えていく上で、家族はいつも私に、アドバイスやヒントを与えてくれた。それゆえ、私は家族というコミュニティをより一層大切にしていかなければならない。大学生となり一人の大人として認められるようになりつつある家族というコミュニティのなかで、これからは今まで自分を支えてくれた

人たちみんなに恩返しをしていきたい。また自分のコミュニケーション能力を生かして、今まで以上に家族、親せき間の結びつきを、より密なものにしていきたいし、そうした今までの小さな努力一つ一つを次の世代にも伝えることのできる、橋渡しのような存在になりたい。

#### 6. 「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

コミュニティとは、自分を取り巻いている環境のことであり、自分の過去、現在、未来と様々な形で結びついている社会を指すのではないかと、私はこの授業を通して考えた。また、コミュニケーションとは、お互いの気持ちを通わせ合うという、心と心のキャッチボールのようなものではないかと感じた。家族、親戚、友人、幼稚園、学校、部活、会社など、あらゆる場面で人々とつながることのできる環境が、私にとってのコミュニティであり、相手を知り、互いを理解し合い、互いの意見や、やりとりから、次の行動に何らかの影響を与え合うことが、私にとってのコミュニケーションである。

#### 7. クラスについての感想

この授業では、自分とは異なる環境で生まれ育った相手と長く濃い時間を過ごすことで、お互いのことを深く知ることができるという、素晴らしい経験ができた。異文化間のやりとりの中では、自分がそれまで当たり前だと思っていた行動や習慣が、必ずしも当たり前ではなく、否定され、ショックを受けることも有り、一方で、相手に自分も影響され、より良い方向に自分の考えや価値観を修正できることも有るのだということを、このクラスで私は学んだ。また、このクラスで取材散歩を行うことは非常に意味のあることだと私は感じた。相手が大好きな環境で自身について話すことで、相手の本当の人間性が見えてくることも有り、何よりも相手がほほ笑みながら自然体で話してくれたことが、大変印象に残った。